



小国高校同窓会報

発行所

山形県西置賜郡小国町

大字岩井沢621番地

小国高等学校内

電話 (62) 2054

小国高等学校同窓会

事務局

母校の活性化に提言を

会長 佐藤 好美

小学校の片隅に「山形県立小国高等学校」の木のプレートが打ちつけられて、わが母校は誕生した。昭和二十三年五月二十二日、終戦の混乱からまだ立直らぬ時期であった。

それから四十五年の歳月が流れ、その間、五千余名の人材を世に送り出し、地元小国町では地域の担手として同窓会の活躍はめざましいものがある。我々は諸先輩が営々と積み重ねてきた年月を思い又、自らの青春時代を思うとき、偶然小国高校に学んだというだけでない一生かわり合ねばならない縁を感じざるを得ないので。

私たちのあの小国高校は今どうなっているのか、折にふれて思いおこす方も多いと思います。郷里から遠く離れておられる方々なら尚一層、母校にかかわるいろいろな思い出を大切にされておられることでしょう。

さて、その母校ですが、今、著しい生徒数の減少にとまどっているところ。一学年二百人を数えた最盛期ともいうべき時代を知っている者にとっては現在の三分の一に満たない生徒数は誠にさびしい限りです。

体育祭の風景、生徒達の熱のこもったプレーの中でグラウンドの広さが気になるのです。体育館に整列してもその広さ

が冷々とした感じを与えてしまいます。もっと多くの生徒を母校に呼び戻す方策はないものでしょうか。

生徒数の減少は即、同窓会入会者の減少となり、今日まで同窓会入会費として卒業時に一度会費を納入するとそれで母校とは縁切りの形になっていました。やりくりに苦勞しながらもせめて母校から発信される同窓会報だけは途絶えさせなくてはならないと努めてまいりましたが、昨今の郵便料金の値上りはそれもままならなくなりました。今問われているのは「金がないから何もしない同窓会」にしてしまいか会費を年々納めていたでいて、それに見合ったサービスと母校へいくばくかの支援をしていくかの二者択一なのです。

そして、昨秋の総会時にその後者を選択していただきました。誠にありがたいことです。しかし金がないから何も出来ないという言い訳はもう通用しなくなりました。会報も発行し会員名簿の発刊の準備も進めております。母校活性化の提言などもいただき乍ら、小国高校の先輩として、本来の同窓会活動を進めてまいりたいと思います。

会費納入につきましては格段の御配慮とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

輝かしい伝統を継承し

更なる発展を



校長 齋藤 貞夫

同窓会報第五号の発刊にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

同窓生諸氏には日頃より本校教育について、ご支援下さいますことに対してお礼を申し上げます。とくに、体育文化後援会の中心的役割りを担っていただき、のびのびとした生徒活動の礎を築いていただいているものと考え、心より感謝いたしておるところであります。

生徒達は今、二二〇名と往時に比べて淋しい姿ではありますが、それなりにまとまりをみせて諸活動に頑張っています。

学習面では、一部に意欲的な取り組みで目的を果している者もいますので、その波及を期待しているところであります。

部活動面では、この一年見るべきものがありました。生徒・職員一体となって励んだ結果、地区総体では、全校生の三割に近い六二名の県大会出場をみましたし、陸上部・スキー部・バレー部の活躍は地区を制するレベルに達しています。

しかし、諸先輩方の当時の活躍からみれば、まだまだの感があります。生徒会誌「連峰」のバックナンバーを繰りてみ

ますと、その時々の栄光の記録が書き残されています。各部の全盛時における輝かしい戦績を励みにし、一層の精進努力をさせたいと思います。

我が校は、昭和二十三年に創立され、平成八年には五十周年を迎えようとしています。この間五千を越える卒業生が世に輩出され、全国各地でご活躍のことは承っております。

今年度の総会の折、第十二回卒業の現余目高校教諭、田村浩氏の講演会が持たれました。後輩にあたる生徒達を奮い立たせたすばらしいお話でしたが、中で氏の在学中前後の諸先輩の現在ご活躍の様子を、実名で具体的に披露していただきました。お聞きしまして、諸先輩が各界で重責を担っておられることを改めて知ることが出来ました。

先輩諸氏の輝かしい実績と、現在の活躍ぶりを励みにし、宮々と築かれた伝統を継承し、更に発展させるべく生徒、職員一丸となって努力することをお誓いいたしごあいさつと致します。

海外研修に参加

ドイツの黒い森構想を視察

昭和53年度卒業 佐藤 憲一
(日重化勤務)

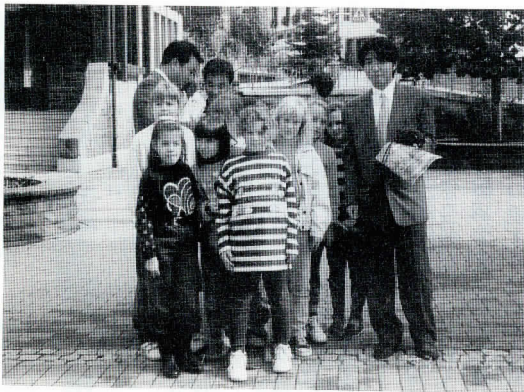
高校を卒業して、早くも五年が過ぎました。今、高校時代のことを振り返って見ると、高校生活の三年間はとても大切な時だったと思います。

それは、集団生活の中で多くの仲間と学び、目標に向かって一生懸命打ち込める時期だからです。

今思えば、高校生活で思い出に残っていることは、高校一年生の時の文化祭で、クラスでスライドを使ったドラマを発表したことでした。担任の先生を中心に夜遅くまで頑張り、完成した時のよろこびと言うのは、格別なものでした。クラスが一丸となつて一つのことに取り組むことができ、特別賞をいただき、みんなでよろこびあったことを、つい最近のように覚えています。

いずれにしても、高校時代に目的を持った行動を行うことが必要だし、何んにもチャレンジし、打ち込めるものをもってほしいと思います。一生懸命やればきっと、そこから得るものは大きいと思います。

私も卒業してすぐに、地元の日重化学工業に就職しました。自分が思っているほど甘いものではなく、社会に出るにはそれだけの心が必要で、高校生活で学んだことは必ず役に立ちます。



ドイツの現地小学生とふれあう

そして五年間たった今、海外へと行く機会がありました。小国町が企画する、ぶな文化ふれあいの里づくりを目指して、海外の先進地を調査、研修するというもので、ドイツ・オーストリア・パリなどを周り、見聞を深めてきました。ドイツでは、どの家の周りにも花がたくさん飾られていて、とても美しく感動しました。これらのことを小国町にも広められたら、すてきな町だと思います。自分にとって、この海外研修で身も心も大きく成長したと思います。これから小国町のために頑張りたいと思います。

最後に、高校生活三年間を悔いのないように、充実した日々を送ってほしいと思います。そして自信を持って、何事にもアタックして下さい。

平成4年度 同窓会会計決算書

収入の部

科 目	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	470,000	470,000		卒業生入会金@5,000×94名
繰 越 金	668,058	668,058		前年度繰越金
雑 収 入	2,942	1,836	△1,106	預金利子等
合 計	1,141,000	1,139,894	△1,106	

支出の部

科 目	予算現額	支出済額	残 額	摘 要
需 要 費	40,000	32,365	7,635	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	135,000	129,594	5,406	各種役員会諸経費等
通 信 費	150,000	136,375	13,625	ハガキ・切手・電話
印 刷 費	205,000	201,571	3,429	会報・その他
使用料貸借料	5,000	0	5,000	
事務室維持費	25,000	0	25,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	40,000	38,625	1,375	
教育助成費	75,000	72,800	2,200	卒業記念品・講演謝礼等
支部助成	55,000	5,000	50,000	
特別事業基金	400,000	100,000	300,000	現在積立額1,739,806
予 備 費	11,000	5,000	6,000	
合 計	1,141,000	721,330	419,670	

収入決算額 支出決算額

1,139,894 - 721,330 = 418,564 (平成5年度へ繰越)

平成5年度 同窓会会計予算書

収入の部

科 目	本年度予算額	摘 要
会 費	410,000	卒業生入会金 @5,000×82名
繰 越 金	418,564	前年度繰越金
雑 収 入	2,436	預金利子等
合 計	831,000	

支出の部

科 目	本年度予算額	摘 要
需 要 費	40,000	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	120,000	各種役員会諸経費
通 信 費	140,000	ハガキ・切手・電話
印 刷 費	220,000	会報・その他
使用料貸借料	5,000	
事務室維持費	30,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	30,000	
教育助成費	75,000	卒業記念品・講演謝礼等
支部助成	55,000	@5,000×11支部
特別事業基金	100,000	
予 備 費	16,000	
合 計	831,000	



本校卒業生の多くの方々のご活躍を例に上げられ、母校後輩の奮起をうながしていた。田村氏の卒業生を広く見つけて、常に母校を思っ下さるお気持ちに敬意を表し、今後益々のご活躍をご期待致します。

本校卒業生の多くの方々のご活躍を例に上げられ、母校後輩の奮起をうながしていた。田村氏の卒業生を広く見つけて、常に母校を思っ下さるお気持ちに敬意を表し、今後益々のご活躍をご期待致します。

林業科卒業

田村 浩氏が講演

小国高校生に期待する

母校文化祭において「小国高校生に期待する」と題して、昭和三十五年度林業科卒業の田村浩氏に講演をいただいた。

田村氏は、新潟県出身。高校時代東北総体タンブリング競技準優勝。順天堂大学卒業。県立余目高校就任。県・東北体操協会普及部長、審判部長、技術委員長を歴任され、県大会個人・団体総合優勝、東北大会個人・団体総合優勝、全国高校総体入賞、国体出場と活躍する生徒を育成された。

平成六年度総会のお知らせ

一、期日 六月十八日(土)

一、場所 松風館

多数の皆様のご出席をお待ち致しております。

平成五年度同窓会総会が開催

年会費制を決定

平成五年度総会が、平成五年十月三十一日(日)、小国高等学校文化祭期間中に行なわれ、同窓生先輩による講演、生徒達のイベント、バザー等へ参加し、在校生と同窓生との楽しい一時の交流が見られました。その後、場所を松風館に移し、総会を開催、会長より「小国高校活性化のため同窓会で頑張っていきたい」とあいさつ。学校長よりは「ピーク時には六〇〇名を数えた生徒数も現在二二〇名とさみしい生徒数ではありますが、特色ある学校運営を行なうてゆきたい」とあいさつがありました。

その後、協議に移り事業報告、決算報告、事業計画、予算案が承認され、年会費制に移行し、同窓会の活発な活動を行なう事を満場一致で承認されました。その後、懇親会に移り、なごやかな一時を過ごし、来年の再会を約束し解散しました。

今母校をば.....

創立45周年に学んで



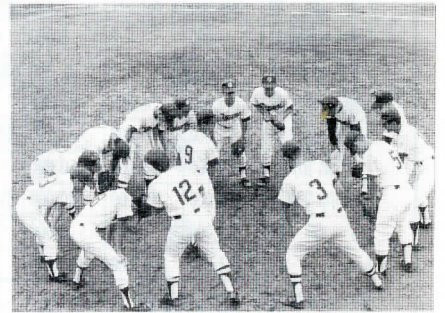
杉山 秋彦

小国高校も創立から四十五年という年月を経て、制服を現在のブレザーへと改正した。その新しい制服に最初に身を包んだ学年である私達は、小国高校の「新しい伝統」を築く担い手として期待され、学ぶことが多かったに違いない。

自分自身の三年間を振り返れば、確かに部活動や受験勉強、あるいは他の学校生活から多くを学び、そして多くを経験したように思う。部活動で連日夜遅くまでの練習、週末の県内外への遠征が精神面での成長を促した。それによって集中力を増したり、物事に対する積極性や強調整性を生み、学校生活や受験勉強にも

『勉強は集中力だ』と改めて思い知らされた。

四十五年という伝統から見ると、三年間はほんのわずかである。しかし、新しい制服に身を包んだ私達が、学校生活の中から多くを学び、多くを経験し、多くを感じたということが、小国高校の「新しい伝統」として後輩達に受け継がれていくことになるのではないだろうか。



東四国国体に参加して



齋藤 奈美

べにばな国体に引き続き、私にとって二度目の出場となった東四国国体。

国体で何よりも嬉しかったのは、べにばな国体で知り合った友達との再会である。競技中はライバルとして、お互い一杯戦い、時には励まし合いながら登ったりして、競技の苦しさや楽しさがわかる仲間との会話は、とぎれることがなく、とても楽しい時間だった。

それから、忘れられないのは踏査競技である。合宿の限られた時間の中で、一日六時間もコースを調べ、納得できるまで歩き、やっと地図を完成させた。しかし本番は、新しく切り開かれたコースと一度も歩いたことのないコースが何箇所か出されたため、目標としていた順位に及ばなかった。

この大会の、さまざまな思い出が、今もその時の感情とともに沸き上がってくる。このような貴重な体験や思い出を、いつまでも忘れることなく、これからの生活に生かしていきたいと思う。

白い森構想施設めぐり



佐藤 直美

十一月に私達三年生は、社会見学で小国町巡りをしてきました。私は十八年間も小国町に住んでいるのに、知らないこ

とがたくさんあるんだなあと思いました。

最初に行ったスポーツ公園では、宿泊施設が建設中でした。私達はテニスコート、陸上競技場、野球場をいつでも利用することが出来ます。次に行ったゆーゆにはサウナ、温水プール等があります。そして健康の森には、最近いくつものログハウスができ、誰でも利用できるそうです。しかし、私が利用したことのある施設はゆーゆだけです。それも個人的にはなく、部活の合宿の時に利用しただけです。せっかくこのように施設が整っているのに、利用しないのはとてももったいないと思いました。それから石滝のスノーパール林道と、りふれに行きました。話に聞いたことはあったのですが、実際に見たのは初めてで、改めて自然の豊かさや大切さを感じました。

おかげで、小国町を今まで以上に知ることができました。



スポーツ公園にて高橋助役さんより説明を受ける生徒たち。

広報委員 仁科 光悦・高橋ひで子

駒沢 堅一

平成5年度 小国高校 進路状況

今年度の就職と進学は、ほぼ5対5で進学率が上昇しました。就職については不況にも関わらず大変順調でした。要因としては、町内大手企業で本校からの採用内定率が上昇したことが挙げられます。進学に関しても、推薦入学で合格を達成しています。大学、短大等の進学希望者が本校に多数入学することを願っています。

進学	内 訳		男	女	計
	大学	短期大学	2	1	3
学	各種学校	看護学校等	0	4	4
	その他専門学校	公共就職訓練校	0	7	7
就	小計	その他専門学校	0	0	0
	小計	その他専門学校	11	13	24
職	地元(小国町西郡)	小計	13	25	38
	地元外県内	小計	14	11	25
C	県外	小計	4	4	8
	公務員	小計	3	7	10
台	自営、家事従事	小計	0	0	0
	(就職進学)	小計	0	1	1
進路未定	小計	小計	0	0	0
	小計	小計	21	23	44
合計	小計	小計	0	0	0
	小計	小計	34	48	82